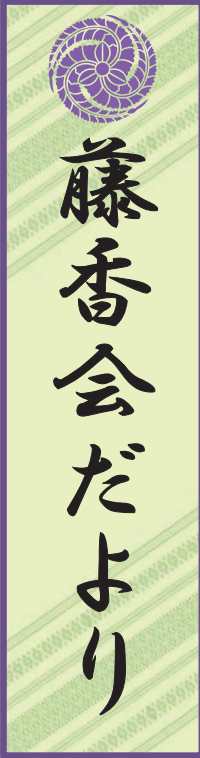


藤香会だより



平成二十九年を迎えて

藤香会会長 山崎 拓



新年あけましておめでとございます。今年には私たち藤香会にとって「さらなる充実の年」にしたと念願しています。

昨年は五月の総会において改革の基本方針をご承認いただきました。この方針に基づき長政公の法要を菩提寺の崇福寺で十六代当主黒田長高様(当会名誉顧問)列席のもと、厳粛に執り行いました。この二月には忠之公の法要を、三月には如水公の法要を長高様に御臨席を賜り実施いたしました。また黒田家ゆかりの神社への大祭参詣も五社増やして実施しました。各神社の氏子代表の方々と交流をもつて当会の目的理解に努めました。福岡においても当会の存在が十分に周知されていない面もあり、広報の面からも意義あることでした。

秋の歴史勉強会も「野村望東尼」研究の第一人者である谷川佳枝子先生に講演をお願いし、福岡市博物館に一五〇名の方がたに出席をいただき大盛会でした。今後とも良い企画で続けて行く所存です。史跡巡りでは、鳥原城、原城での黒田藩の足跡を辿りました。例年より遠くに出かけたにも拘わらず三十名の会員の参加を頂きました。今後とも会員の積極的なご参加をお願いします。更に賛助会員募集ですが、お陰さまで目標を

第22号
平成29年1月1日発行
発行者
藤香会事務局
092-724-0007
発行責任者
毛屋 嘉明

達成する目的が立ちました。今年も藤香会の発展の為に会員の皆さまの一層のご協力をお願いいたします。最後になりましたが本年も会員の皆さまにとりまして幸多き年になりますことをご祈念いたします。

年頭にあたり

藤香会副会長 毛屋 嘉明



藤香会の皆様あけましておめでとうございます。私は、昨年12月10日の忘年会で、「藤香会の現状」について、ご説明申し上げました。その時にも申しましたが、総会にて承認になりました賛助会員の募集に着手し、昨年は会長及び各理事の方々のご協力により、24の企業・団体の賛助会員加入をいただきました。

改めてご協力を頂いた賛助会員の皆様にお礼申し上げます。今年も引き続き、お礼や勧誘に回りたいと思っております。その賛助金は会長の年頭所感にあるとおり有効に活用して、更なる藤香会活動の充実を図りたいと思っております。また、その実施状況については、今年5月に予定されている総会において、会員の皆様に説明したいと思っております。今後共、藤香会の活動にご理解、ご協力をお願い申し上げます。

会員クリック[®]



東長寺住職 藤田 紫雲

黒田家と東長密寺

真言宗別格本山東長密寺は弘法大師空海によって日本における密教寺院最初霊場として建立された。空海は延暦23年(804)31で渡唐し、都であった長安(現在の西安)の青龍寺惠景和尚の法を享け真言宗第八祖として遍照金剛の阿闍梨を授かった。



東長寺山門

言宗の信仰をさらに深め東長寺を菩提寺と定め、諸堂を建立寄進し200石を給された。第三代光之公も父の信仰をうけて東長寺庇護の念厚く、更に100石を加増し300石を給与され、糟屋郡奈多に地16万坪を薪料として贈ったのである。東長寺は江戸初年より博多総鎮守櫛田神社の別当としてその経営にあたり、宮の境内に神護寺と本願院の二寺を建立していた。明治の神仏分離令によって櫛田宮と分離したのである。その名残りが、祇園山笠が、7月15日の早朝、挙つて東長寺に奉納するのである。

33歳で大同元年(806)に帰朝し博多に上陸し一字を建立し東長密寺(密教が東に長く伝わるように)と命名祈誓された。約4年間筑紫の地に滞在された後、上洛された。以後広大な大伽藍を誇っていた

が、元寇の役をはじめ幾多の戦火に遭い一堂を残すのみとなっていた。黒田家は禅宗を宗旨としていたが、第二代忠之公が藩主となるや、日頃尊崇していた真

公の側近であった。数年前NHKで軍師官兵衛が放映され、官兵衛ブームが沸いたが当寺内の黒田藩主の墓を訪れる人も多くなった。

又、黒田藩内に於ける宗教関係事案は、東長寺奉行というものがあり、黒田藩社奉行との折衝は東長寺奉行を通しての交渉で決められていた。境内墓地にある、第二代忠之公、第三代光之公、第八代治高公の墓所があるが、特に第二代忠之公の墓は日本第二の大きさである。五輪塔墓で回りに四十九院の石柱が立ち並び、殉死者6名の墓も側に祀られている。以後殉死することを徳川幕府が禁止したので、最後の殉死が「忠之

山崎会長が傘寿を迎えられました

当会の活動に尽力いただいている山崎会長が昨年末に80歳になられ、今後のますますの活躍とご健康を念願して忘年会の席で記念品を贈呈しました。

長政公の第394回忌ご法要

初代藩主長政公のご法要が墓所のある崇福寺で、16代当主長高様のご臨席のもと会員50名が参列して執り行われました。

福岡市では36度を超える猛暑の中での法要となり、参列者は汗だくとなりながら焼香を行いました。本堂での法要の後、中門を通過して黒田家墓所に向かい長政公の墓前で焼香を行い、滞りなく法要を終えました。

「歴史勉強会開催」 於9月24日福岡市博物館

藤香会の恒例の歴史勉強会が9月24日、福岡市博物館講座室で150名の参加を得て開催されました。



今年には野村望東尼研究家の谷川佳枝子先生をお迎えし、「野村望東尼の生涯」と題して1時間20分に亘る講演をいただきました。望東尼が勤皇の思想を身に付けてゆく過程や志士たちとの交わりを詳しく説明され、折節に詠んだ和歌を参加者全員が唱和をしながらの講演でした。

望東尼が山口県でいかに大切にされているか、またその意思を子々孫々に伝えて行く努力をされているかを防府望東尼会の活動の説明を

通してお話されました。

講演後は先生持参の井上馨の手紙や望東尼が三味線を弾いている骸骨姿の晋作を描いた絵と詠んだ和歌の掛け軸を披露されました。望東尼の150回遠忌法要

藤香会の歴史勉強会でも取り上げられた幕末の歌人であり勤皇の志士であった野村望東尼の第150回遠忌法要が命日の11月6日に平尾山荘で営われました。当会から毛屋副会長はじめ理事3名と会員が参列しました。

史跡巡り(10月18日) 島原をたづねて

10月18日に参加者30名が有馬キリシタン遺産記念館、原城跡を見学しました。

記念館では、案内ガイドさんの菌切れのよい解説にうなずきながら聞き入っていました。ここを統治していたキリシタン大名の有馬氏と天正少年遣欧使節団の栄光の後、徳川幕府による



原城跡にて

禁教、島原の乱と続く弾圧の時代が展示されています。

島原の乱の本拠地で多くの人々が籠城して全滅した原城跡は、破却された石垣や門の礎石が残るだけですが、そのために痛ましさを一層際立たせています。呼応して立ち上がった天草の島々が指呼の間に見えます。

筑前藩は黒田騒動での幕府に対する恩義もあつたでしょう、忠之公は14,000名を派遣しています。



「黒田播磨日記 安政二年」には、10月19日の記述に、江戸で10月2日に発生した安政江戸地震で死者83,000人と記録されています。幕府が各藩に被害状況の提出を求めたようです。

「去七日立大早飛脚昨夜到着 地震二而上之段江上々様被成御座候段等委細御到来」とあつて安政2年10月7日に幕府に報告された内容が大早飛脚によって福岡にもたらされました。

黒田屋敷も大きな被害を受けました。「去二日夜地震二而美濃守(長薄のこと)桜田居屋敷并溜池中屋敷 渋谷下屋敷 深川清住町下屋敷 共震潰破損類焼等・・・」として各屋敷の被害状況を幕府に報告しています。

溜池中屋敷では怪我をして亡くなった人が男女それぞれ3名ずつ出ているとあります。



道中は片道4時間という長丁場のため、車内では田中崇和理事提供のビデオを上映しました。「乞食大将」は市川右太衛門主演の長政公の家臣・後藤又兵衛の活躍をえがいた映画、「陸軍」は陸軍福岡24連隊が協力して作成され、福岡市内が随所に写されています。「ドグラ・マグラ」は福岡出身の夢野久作の作品で、九州大学医学部が中心となって映し出されています。

黒田家所縁の 寺社参詣を広げる

平成28年度総会で決められたとおり、新たに宗像大社、住吉神社、警固神社、宮崎宮の例大祭に参詣いたしました。

宗像大社には10月1日に山崎会長、2日に毛屋副会長が、住吉神社には10月14日に田島事務局長と浜田理事、警固神社には10月19日に毛屋副会長と平田理事、宮崎宮には9月15日に毛屋副会長と田島事務局長がそれぞれ参詣しました。その他、例年のとおり光雲神社、鳥飼八幡宮、紅葉八幡宮の秋季例大祭に参詣しました。

★新規入会員紹介

- 7月 渡邊桂堂・今藤久夫・吉田長利・吉田登志枝
- 8月 大音貴久
- 10月 矢野卓爾・高杉義明・黒田剛
- 11月 福島信行・木下昭弘・尾形大作
- 12月 樋口照記・萩尾明彦

集記 編後

今回は、東長寺御住職の藤田紫雲師について書いていただきました。忠之公ご法要の時にお話をお聞きするのですが、会員全てに知っていただくために掲載する次第です。(天本記)

ホームページアドレス

<http://toukoukai-kuroda.com/>